

2006年8月吉日

様

高津山荘を守る会
会長 服部 功 (大阪府勤労者山岳連盟理事長)
広報部 藤本 勇 (高津山岳会々長)
(大阪市立大学山岳会副会長)
事務局 岩山春夫 (山の会 カランクルン会長)

比良山「高津山荘」解体撤去工事完了のお知らせ

拝啓 うっとうしく長かった今年の梅雨が明け酷暑の日々が続いておりますが、皆様方にはますますご健勝のことと存じ、お喜び申し上げます

さて首記の件、既報の通りに去る7月24日(月)から畠井工務店(大阪市北区中津1丁目 代表者 畠井 修氏 大阪こぶしの会々長)の手により解体工事に入っておりましたが、解体工事は7月28日(金)に終了し、後はヘリコプターによる不燃物の搬出作業のみとなっております。

そして8月4日(金)にヘリコプターによる不燃物の搬出作業を実施し、これも無事に終了しました。山より降ろされた不燃物は同日と翌5日に同工務店の手により廃棄物処理業者に持ち込まれました。ここにご協力いただきました皆様方に、現地での解体撤去工事が事故もなく無事に終了いたしましたことを謹んでご報告させていただきます。

「高津山荘の解体撤去と自然に帰す計画」に参加して応援して下さった各山岳会関係の皆様方、解体作業がスムーズに進行するように種々の便宜を図って下さった京阪電気鉄道株式会社、比良索道株式会社、株式会社竹中土木、安全索道株式会社、工事の間の山荘の使用を快諾して下さった株式会社旅の本棚、ヘリコプターによる不燃物搬出作業にご尽力いただいた中日本航空株式会社、高津山荘となりの「旅の本棚山荘」に泊まったの自炊生活という不便な生活を強いられながら現地で実際の解体工事に携わり、同工事を無事故で、そして予定通りに遂行して下さいました畠井工務店の方々……。皆様方のご協力なくしてはなし得なかった大事業でした。本当にありがとうございます。こころより厚く御礼申し上げます。

40年間の長きに亘って私たちに家族や仲間・友人等との語らいの場と、比良山の大自然との触れ合いの場を与えてくれた「高津山荘」は今、自然の懐へと帰っていきました。山荘の跡地には皆様の思い出を大切に残すために、山荘基礎コンクリートの一つをそのままに残し、これをケルンに見立ててモニュメントを作りました。

この計画に参加して資金をご提供いただきました皆様方への、会計報告を含めたこの計画の最終報告は、後日改めてさせていただきます。このお知らせと報告書はあくまでも「高津山荘」の現地での解体撤去作業が終わったことをご報告させていただくものです。「高津山荘を守る会」は最終報告が終了するまで存続させていただきます。解体工事の写真を見ながら私たちの青春の時代を思い出し、ありし日の「高津山荘」で過ごした大自然の中での生活に思いを馳せてくだされば幸甚です。

敬具

「高津山荘解体撤去工事」現地作業終了報告書

2006年8月吉日
高津山荘を守る会
事務局 高野 隆夫

<7月24日(月)*12:00>



解体工事着工前。最後の高津山荘の姿を背景に参加者全員で、各人思い思いの感慨を心に秘めながらの記念撮影。高村奉樹氏(高津山岳会・京都大学学士山岳会)持参のシャンパンで安全祈願。この後すぐに解体工事を開始。

<7月24日(月)*16:30>



工事はまず山荘の壁と屋根を剥がし、柱と梁の骨組みだけにすることから始まりました。

<7月25日(火)*10:00>



屋根や壁を剥がされて、段々と柱と梁の骨組みだけになっていく山荘。

<7月25日*11:00>



2004年から2005年にかけての冬の豪雪で折れた天井梁。解体撤去が必要になった理由の一つです。



天井梁と同じ年の豪雪で折れた2階を支える梁。これも解体撤去の理由の一つです。

<7月25日(火)*11:00>



雨水の浸入とシロアリに食われてぼろぼろになっていた玄関上の梁。

<7月25日(火)*14:00>



山荘の傍にあるミズナラの大木にヒッパラーをセットし、骨組みだけになった山荘にワイヤーを掛けます。ミズナラさん、ごめんなさい。

<7月25日(火)*14:00>



いよいよ、ヒッパラーで骨組みだけになった山荘を引き倒します。ワイヤーが引かれる度に悲しそうに悲鳴を上げる山荘・・・・・・・・。

<7月25日(火)*15:20>



三度にわたるヒッパラーでの引き倒し工事で、ついに山荘は完全に倒壊しました・・・・・・・・。
合掌・・・・・・・・。

<7月26日(水)*09:00>



柱や壁は完全に除去され、床板と基礎材だけとなった山荘。

<7月26日(水)*11:50>



床板と基礎材も取り払われ、そこには木材の大きな三つの山が出現。誰がここまで運んだのか？。木材の山にしばし呆然。隣の「旅の本棚山荘」に寄付するにも多すぎる木材・板類は「完全焼却」処分に決定。

<7月26日(水)*16:50>



京阪電鉄の現場に遠慮して煙を出さないように焼却。空の白い雲やガスが煙を隠してくれます。黒い煙の出るプラスチック類は夜に少しずつ焼却処理していきます。

<7月27日(木)*07:30>



最後に残った3本の柱を火炎の中に投入。山荘にあった畳や寝袋、毛布、書籍類とともに、木材や板類の可燃物はすべて灰燼に帰しました。

<7月27日(木)*14:30>



一つの小さな灰燼の丘となった山荘を、傍に掘った穴に埋めます。来年には草や苔に覆われて元の自然に帰っていくでしょう・・・。

<7月27日(木)*12:00>



「この地に高津山荘ありき。(1966～2006)」。小屋の西北隅にあった元の炭焼き窯の後に記念のモニュメントを作りました。基礎のコンクリートの一つをケルンに見立ててそのままに残しました。多くの人々の思い出として・・・。

<7月28日(金)*06:15>



畠井工務店さんの手によって、山荘はモニュメントの基礎コンクリートと山荘前のストーンサークルを残し、自然の懐へと帰っていきました。後日にヘリコプターで降ろす不燃材のモッコが三個、静かにその日を待ちます・・・。

<7月28日(金)*07:00>



山荘を焼却した跡に作ったストーンサークルに一羽のカラスアゲハが飛来し、山荘との別れを惜しむかのように一時間以上もじっとしたままでした。そのアゲハを見る私の頭の中では、山荘の40年間の思い出が走馬灯のように駆け巡っているのでした・・・・・・さようなら・・・。

<8月4日(金)*10:30>



当初に予定していたモッコの数は3個。しかし一部のモッコが制限重量をオーバーしているため再梱包。結局モッコの数は5個となりました。ヘリコプターを待つモッコの群れ。

<8月4日(金)*12:30>



午前中に搬出終了の予定。が、ヘリコプターの部品の突然の不調に見舞われる。代替部品を名古屋から輸送する必要が生じ搬出作業の開始は午後2時以降となる予定。その間にトイレ跡に見えていたコンクリート塊に土を掛け、更にその上に朽ちた倒木を乗せます。

立つ鳥、あとを汚さず・・・。自然に帰りにくい人工物・・・ガラス瓶、空き缶、ガラス破片、釘類、ビニール、トタン破片等を拾い集め、モッコに入れてヘリコプターで搬出できるようにします。

<8月4日(金)*15:15>



代替部品が名古屋より到着。午後2時15分に搬出作業が開始され、ヘリコプターは順調に麓のヘリポートと山荘の間を往復します。

<8月4日(金)*15:15>



午後3時15分、最後の5個目のモッコが吊上げられます。あとは麓のヘリポートに下ろされた不燃材をトラックで搬出し、廃棄物処理業者に持ち込むのみです。ヘリポートからの不燃廃棄物の搬出は4日と5日の二日をかけて搬出されました。

<8月10日(木)*09:00>



ここに「高津山荘の解体撤去と自然に帰す計画」の99%が終結しました。多くの皆様のご協力を得て、40年もの長い間私たちの心の支えとなり安らぎと憩いの場を提供してくれた「高津山荘」を、計画通りに自然に帰すことができました。

山荘跡地には再び静寂が訪れ、跡地にできた広々とした空間にはひぐらしの声と小鳥たちのさえずりが響き、オニヤンマが静かに飛行していました。来年にはこの跡地は草木と苔に覆われ、記念のモニュメントだけがここに「高津山荘」があったことを示すでしょう……。